

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定) 実施結果

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①ゼロから1を生み出し得る人間を育て、予測不可能で不確かな時代の担い手を育成する。</p> <p>②生徒が自ら取り組みたい事柄にじっくり向き合い、主体的に学びを深めることができる教育課程の研究に取り組む。</p> <p>③あらゆる教育活動をおとして、他者とともに解決を図る「協働的課題解決力」を育成する。</p>	<p>①学校全体で「教科等横断的な深い学び」による生徒の汎用的な生きる力を育むための授業をより一層充実させる。</p> <p>②講座内におけるカリキュラム・マネジメントの工夫や改善により、探究的な授業実践の拡充を行う。</p> <p>③「協働的課題解決力」の育成を見通した探究的なオリジナル教材の開発と実践。</p>	<p>①教員・生徒間での授業テーマの共有とその浸透を図り、授業評価アンケート等を活用した定期的な振り返りと情報共有を行う。</p> <p>②教科内や教科間での情報共有を行うことで授業内容の過不足を見直しカリキュラムのゆとりを創出する。</p> <p>③教科の枠組みを超えた教材開発チームの発足と教材開発。</p>	<p>①授業評価アンケートは昨年度と同程度の高水準の回答であったか。</p> <p>①授業テーマが十分に浸透し、教科間での情報共有や振り返り等が行われ、次年度に向けた方向性を考えられたか。</p> <p>②教科会などで協議を充実させられたか。</p> <p>③プロジェクトチームの発足と教材開発ができているか。</p>					
2 生徒指導・支援	<p>④生徒が互いの存在を尊重し、だれもが居心地よく過ごせる環境を整え、健やかなメンタリティを育成する。</p> <p>⑤長期的展望を持ち、指示を待たずに主体的に行動できる、次世代をリードする人間にふさわしい資質・能力の育成を図る。</p>	<p>④個別支援が必要な生徒に早期対応できるよう、日常的な教育相談の充実を図ると共に、SCやSSW及び他グループと連携した学校全体での生徒支援体制の構築を図る。</p> <p>⑤学習のみならず、部活動や学校行事で自主性や協調性・リーダーシップを発揮できるよう支援する。</p>	<p>④心理検査や適性検査に加え模擬試験や学校行事の振り返りの機会等を活用した日常的な教育相談を実施し、適切な支援につなげていく。</p> <p>④心理検査等の活用に向けた職員研修を行う。</p> <p>⑤挨拶など生徒への声かけをより積極的に行う。</p> <p>⑤戸陵祭の体育部門と文化部門において、ユニット長を中心に生徒の活躍の場を提供する。</p> <p>⑤生徒会本部役員を中心に壮行会を行うことにより、部活動を盛り上げる。</p>	<p>④SCやSSW、他グループと連携することができたか。</p> <p>④職員研修を実施し、活用することができたか。</p> <p>⑤生徒と教員間で十分にコミュニケーションを取って行事の運営を行うことができたか。</p> <p>⑤部活動に対して積極的に支援できたか。</p> <p>⑤挨拶など積極的に声掛けができたか。</p>					
3 進路指導・支援	<p>⑥県内屈指の進学校として難関国公立大学への安定した進学実績を維持するとともに進学先として海外大学をも視野に入れた本校ならではの進学指導を行う。</p> <p>⑦3年間を見通したキャリア支援のもと、進学後に役立つ資質・能力を計画的に養う。</p>	<p>⑥キャリア教育実践プログラムを精査し、目標に準じたプログラムを再構築、周知、共有することで、よりよい進路プログラムを実践することを目指す。</p> <p>⑥ガイダンスや進路行事を通して、広い視野で生徒が進路選択をで</p>	<p>⑥キャリア教育のプログラムを適切に用意し、生徒に目的を理解させて取り組ませ、実施後の振り返りにより、自身の変容を確認させる。</p> <p>⑥定期的な面談等を通して、生徒の状況を把握し、高い目標をもてるように支援していく。</p>	<p>⑥生徒の自己評価による、生徒の取り組み状況や成果についての肯定的な回答の割合。</p> <p>⑥国公立大学の志望者数が6割を超えたか。また、海外への進路選択をする生徒がいるか。</p> <p>⑥国公立大学の合格者150名、難関国公立大学の合格者が20名を超えたか。</p>					

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	⑧国際性を育み、グローバルに活躍できる人間を育てる。	<p>きるように支援する。また、生徒の現状を定期的に確認させ、生徒がより高い目標を持つよう促し、進路実現に向けて計画的に支援していく。</p> <p>⑦よりよいツールを活用して、生徒の能力を多面的に測り、生徒の資質・能力の伸長に役立てる。</p> <p>⑧国際交流・異文化理解の深い学びと実践力の育成に取り組む。</p>	<p>⑥実力テスト等の前後で日頃の学習を振り返り、自身の取り組みをよりよく改善する機会とする。</p> <p>⑥キャリアパスポートの活用を見直し、生徒が自己を振り返ったり、自身の将来を考えたりする機会を作る。</p> <p>⑦様々な側面から生徒の能力を測るツールを精選し、効果的かつ効率的な活用を検討する。</p> <p>⑧国内語学研修、海外語学研修、オンラインでの海外高校生等との交流を実施し、生徒に国際交流・異文化理解の機会を提供する。</p> <p>⑧英語4技能の総合的な習得を目指した授業を実践する。</p>	<p>⑦様々な側面から生徒の能力を測るツールを比較し、今後の方向性について検討できたか。</p> <p>⑧国内語学研修及び海外語学研修を実施できたか。また、オンライン交流を拡充できたか。</p> <p>⑧事後アンケートにおける参加生徒の肯定的な回答の割合。</p> <p>⑧取組による生徒の変容を把握する。①生徒の自己評価による、自身の取組状況や成果についての肯定的な回答の割合。</p>					
4 地域等との協働	<p>⑨大学や研究機関との連携を強化し、外部リソースを十分に活用して生徒の学びを深める。</p> <p>⑩近隣の小・中・高校との交流をおして本校の取組を還元し、地域の学びの拠点として、信頼される教育活動を実践する。</p>	<p>⑨高大連携を充実させる。</p> <p>⑨研究機関、企業等との連携を実践する。</p> <p>⑩学校HPを細やかに更新し、特に中学生とその保護者に、本校の魅力と特色がしっかりと伝わる状況を常に保持し続ける。</p> <p>⑪本校進学希望の中学生とその保護者に対し、学校説明会の内容を充実させる。</p>	<p>⑨グローバル教育推進グループが中心となって連携事業を集約し、効率化を図る。</p> <p>⑩広報情報グループとグローバル教育推進グループが連携を取り、特にSSH関係の生徒の活躍が伝わる内容の充実を図る。</p> <p>⑪学校説明会において、生徒サポーターの活躍の場を用意し、本校進学希望の中学生に対して、実体験によるリアルな説明が実施されるよう配慮する。</p>	<p>⑨外部の連携先を開拓し、連携事業を実施できたか。</p> <p>⑩⑪学校説明会後の来場者アンケートの評価が高いか。</p>					
5 学校管理 学校運営	<p>⑪「4年間の目標」の達成状況を確認しながら課題を見つけ、学校経営の視点からグループを越えて組織として解決する力を強化する。</p> <p>⑫事故防止の取組を怠らず、地域の信頼を裏切らない。</p> <p>⑬組織として従来の働き方を見直し、生徒の成長という目的のために、職員が心理的ゆとりを持ち、主体的に学べる、常に変革可能な組織運営を目指す。</p>	<p>⑪4年目の目標達成に向けた1年目の単年度目標を適切に進める。</p> <p>⑫職員発信による事故・不祥事防止研修会を企画、実施する。</p> <p>⑬職員の意識改革につながる研修を企画、実施する。</p>	<p>⑪企画会議で進捗状況を随時確認する。</p> <p>⑫各グループを母体とし、持ち回りで事故・不祥事防止研修会を実施する。</p> <p>⑬職員研修を年間行事に位置付け、タイムリーな内容の研修を実施する。</p>	<p>⑪学校運営協議会で目標達成状況を確認できたか。</p> <p>⑫事故・不祥事防止研修会をグループ主体で実施できたか。</p> <p>⑬研修会後の振り返りにより職員の意識を確認し、新たな気付きや変容が見られたか。</p>					